

備前市施策評価シート

【平成31年度作成】

施策名 (小項目)	生涯を通じた健康づくりの推進	決算書 P120	(款)4 衛生費 (項)1 保健衛生費 (目)1 保健衛生総務費, 2 予防費
コード	04-06-23	作成者	保健課長 森 優 (tel 64-1819)

この施策の
アピール
ポイント

①法律に基づき各種健診や予防接種事業を実施している。市独自事業として、主に言語発達等が気になる就学前の幼児や保護者を対象にマザーズスクール事業を実施している。②検診(健診)受診率の向上のため受診しやすい体制づくりや受診勧奨を行っている。③精神障害者の集いの場としての地域交流サロンを設置している。また、継続的な治療のため通院医療費を給付している。

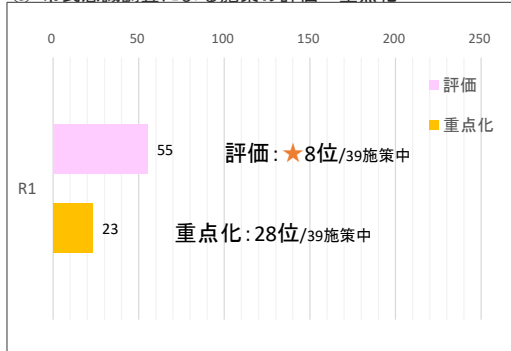
この施策の
平成30年度の
施政方針

生涯を通じた健康づくりの推進につきましては、子どもから高齢者まであらゆる世代の方が心身ともに健康に暮らしていけるよう、地域の関係機関、愛育委員、栄養委員などと連携して、健康づくりや食育に取り組んでまいります。
また、26年度から35年度までの健康づくり・食育への施策となる「第2次健康びぜん21・食育推進計画」の中間評価を行ってまいります。

<備前市総合計画の内容から記載する>

① 政策の体系	基本構想(大項目)	土台となる政策「安全・安心」
	基本計画(中項目)	誰もがいつまでも安心して暮らせるまち
② 対象と目的 (誰のために、何のために)	子どもから高齢者まですべての市民が心身ともに健康に暮らせるようにする。	
③ 現況と課題 (総合計画から現在の問題点を抽出)	本市では、市民の健康寿命を延ばし、QOL(※)の向上を図るため、「第2次健康びぜん21」及び「第2次備前市食育推進計画」に基づいた保健事業を展開しています。市民が自分の暮らしている地域の健康面での課題を理解し、自らの健康への関心を高め「自分の健康は自分でつくる」ことを目指していますが、これをより多様な世代や地域の隅々まで浸透させることが必要となっています。	
④ 施策展開 (総合計画の施策部分から、実施する施策を抽出)	<ul style="list-style-type: none"> 一貫した母子保健の推進 歯科保健の推進(「320運動」の推進と歯に関する健康教育や普及啓発の実施) 成人保健の推進 精神障がい者の地域生活の支援 結核等対策の推進 健康づくり・食育の推進 	

⑤ 市民意識調査による施策の評価・重点化



評価結果の分析

愛育委員、栄養委員のように市民に身近な存在の方が、健康に関する啓発活動を各地区の行事等の機会をとらえ実施したことや、Bポイント制度の浸透により市民の健康に関する意識向上が図れたのではないかと。

重点化要望の分析

本市の死因の状況は、生活習慣病に起因する疾病が上位を占めています。これらの疾病については若年期の生活習慣の乱れが原因で発症します。若年期では健康診査等において健診結果が各基準値を超え悪い状況になっていても痛みを伴わないことから、重要視しない傾向にあります。このようなことから重点化の必要性を感じていないのではないのでしょうか。

⑥ 施策成果指標(基本目標・基本施策・施策意図から設定)

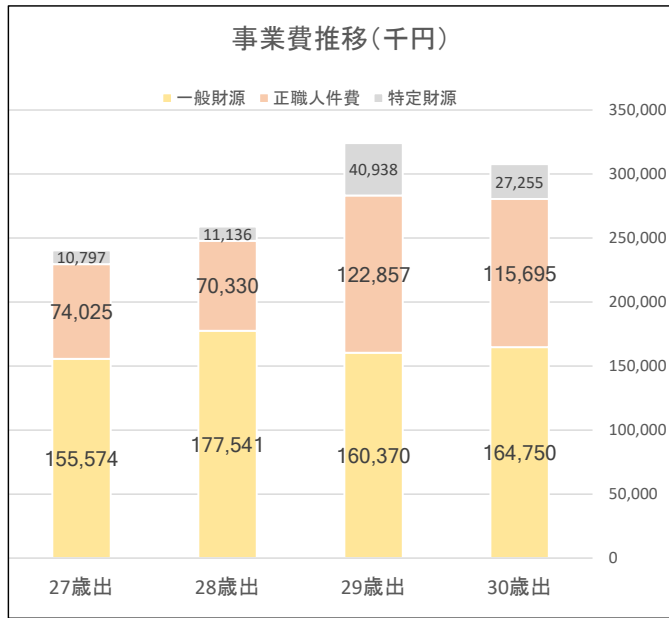
施策に対する成果指標名	単 位	過年度実績			評価年度	成果指標の計算式の説明 ベンチマークの説明	目標値	
		H28	H29	H30				
成果指標 【自分の健康に気をつけている市民の割合【市民意識調査】】	目標	%	95.0	93.0	93.0	市民意識調査	R2	93.0
	実績	%	86.5		81.3		R4	97.0
	達成率	%	91.1	0.0	87.4			
	ベンチマーク							
参考指標 乳幼児健診受診率	目標	%	90.0	94.0	94.0	受診者数/検診対象者数	R2	94.0
	実績	%	96.1	94.9	96.1		R4	94.5
	達成率	%	106.8	101.0	102.2			
	ベンチマーク							
参考指標①	目標	%	15.0	14.0	14.0	3歳6カ月児の虫歯罹患率	R2	14.0
	実績	%	15.8	22.5	20.3		R4	13.0
	達成率	%	105.3	160.7	145.0			
	ベンチマーク							
参考指標②	目標	%	30.0	17.0	17.0	婦人科検診(乳がん・子宮がん)受診率	R2	17.0
	実績	%	10.7	9.7	8.1		R4	20.0
	達成率	%	35.7	57.1	47.6			
	ベンチマーク							
参考指標③								

⑦ 目標達成に必要な新規事業(施策構成事務事業以外の事業)及び連携させる他部署の事業

実施主体	新規に必要な事業・連携が必要な事業	説明・期待される効果
保育園・幼稚園	乳幼児健康診査事業・予防接種事業	要観察児のフォロー、虐待予防
介護福祉課	健康教育事業・健康相談事業	65歳以上の市民の健康づくりは介護予防事業(地域支援)として実施
保健福祉部	Bポイント事業	市民主役の健康づくり

⑧ 施策の評価

項 目	評 価	5:非常に高い 4:高い 3:どちらともいえない 2:低い 1:非常に低い	
		判 断 理 由 (なぜ、そのランクと評価したのか)	
1 <成果指標の妥当性> 施策の目的・成果を表現しているか?	4	すべての市民が心身ともに健康に暮らせるようにするためには、まず本人の認識と取り組みが必要であることから、本指標は妥当である。	
2 <事業構成の妥当性> 手段は最適か?	4	子どもから高齢者までの各ライフステージに応じた事業構成であり適当である。	
3 <施策の有効性> 指標分析、評価年度・中長期の達成見込みは?	4	乳幼児期の健康サポート体制は、利用しやすさを基準に企画している。また、検診の目標値はハードルが高く厳しいものと考えるが、一方で医療費の増加に歯止めをかける効果にも期待している。	
進行年度(H31年度)の取組内容(課題解決状況)		<ul style="list-style-type: none"> ○「第2次健康びぜん21・食育推進計画(改訂版)・備前市自殺対策計画」を基に各事業に取り組み。 ○「第2期データヘルス計画」に基づき、効果的かつ効率的な生活習慣予防事業等の実施。 ○各種検診について、Bポイント制度の活用、こども園、小学校との連携を取り参観日等の機会をとらえて若い世代への検診受診の啓発に取り組み受診率の向上を図る。 ○特定保健指導について、電話での勧奨を強化し実施することで指導率の向上を図る。 	
翌年度(R2年度)の取組目標		<ul style="list-style-type: none"> ○「第2次健康びぜん21・食育推進計画(改訂版)・備前市自殺対策計画」を基に、各事業を実施する。 ○「第2期データヘルス計画」に基づき、効果的かつ効率的な生活習慣予防事業等の実施。 ○各種検診について、Bポイント制度の活用、受診しやすい体制づくりや勧奨を行い、受診率の向上を図る。 ○特定保健指導について、積極的な勧奨を行い、実施率の向上を図る。 	
二次評価者コメント		子どもから高齢者まであらゆる世代の市民が心身ともに健康に暮らしていくためには、地域の関係団体、組織等と連携を密にし、地域での支え合いやつながりを広げ、協働で健康づくり・食育を推進していく必要があります。また、特定健診やがん検診などの受診率を上げ、病気を早期に発見し早期に治療していく必要があります。計画に基づいた効果的な生活習慣予防事業に取り組んでください。	基本施策への貢献度 4 やや高い
役職	保健福祉部長	氏名	山本 光男



事業費
特定財源

3.1 億円
0.3 億円

